

議員提出議案第2号

「手話言語法(仮称)」制定を求める意見書を別紙のとおり提出する。

平成 26 年 3 月 20 日

提出者 高岡市議会議員 福井 直樹

石須 大雄

四十九清治

樋詰 和子

「手話言語法（仮称）」制定を求める意見書

手話とは、言語を音声ではなく、手指や体の動き、表情に変えて表現していると思われがちであるが、本来は、独自の語彙や文法体系をもつ言語であり、音声が届かない、聞こえづらい、音声で話すことができない、話しにくい聴覚障害者にとって、日常生活や社会生活を営む上で、大切な情報獲得とコミュニケーションの手段である。

国連総会において平成18年12月に採択、平成20年に発効された「障害者権利条約」の第2条には、「言語」とは、音声言語及び手話その他の形態の非音声言語をいう。」と定義され、手話が言語として国際的に認知された。

また、政府は平成21年度に内閣府に障がい者制度改革推進本部を設置し、障害者権利条約の批准に向けて国内法の整備を進めている。平成23年8月に改正された「障害者基本法」の第3条には、「全て障害者は、可能な限り、言語（手話を含む。）その他の意思疎通のための手段についての選択の機会が確保される」と定められ、手話は言語に含まれることが明記されたところである。

さらに、同法の第22条には国及び地方公共団体に対して情報の利用におけるバリアフリー化施策を義務付けていることから、手話が日本語と対等な言語であることを示し、日常生活、職場、教育の場で手話を使った情報の提供やコミュニケーションが保障され、自由に手話が使え、社会環境の整備、そして、手話を言語として普及・研究できる環境の整備を国として実現する必要がある。

よって、国会及び政府におかれては、上記の内容を盛り込んだ「手話言語法（仮称）」を早期に制定するよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成26年3月20日

高岡市議会

提出先

衆議院議長

参議院議長

内閣総理大臣

総務大臣

厚生労働大臣

内閣官房長官